

浸潤性乳管癌の診断・治療のため当院に入院・通院されていた患者さん の診療情報および腫瘍組織を用いた臨床研究に対するご協力をお願い

研究責任者

病理学教室 岡田保典

実務責任者

病理学教室 蔵本純子

このたび当院では、上記のご病気で入院・通院されていた患者さんの診療情報を用いた下記の研究を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨、実務責任者・蔵本純子までご連絡をお願いします。

1 対象となる方

2008年1月1日より現在までの間に、当院にて浸潤性乳管癌の診断・治療のために入院あるいは通院し、生検・手術などを受けた方。

2 研究課題名

浸潤性乳管癌における化学療法耐性メカニズムの解析

3 研究実施機関

慶應義塾大学医学部病理学教室

4 本研究の目的

乳がん治療において抗がん剤は、手術や放射線と並び重要な治療法の一つとなっています。よりよい乳がん治療を確立するため、乳がん細胞がどのようにして化学療法に対する抵抗性を獲得するかという問題に対する研究が重要とされています。しかし、医学が発達した現在でもその詳細は明らかになっておらず、分子レベルでのがん細胞の振る舞いを研究することが医学の発展に不可欠です。

この研究は、乳がん細胞が抗がん剤に対して抵抗性を獲得する際に、どのような分子がどの程度産生されているのかを調べることを目的としています。

5 協力をお願いする内容

この研究では、病理診断目的で作製された病理検体（乳腺生検検体および乳腺温存・全摘切除検体のホルマリン固定後包埋ブロック）の一部を使用させていただきます。また、乳がんに関する患者さ

んの診療情報（治療内容や治療の効き具合、病理診断結果、年齢、体格指数など）を参照させていただきます。

6 本研究の実施期間

西暦 2013年01月01日～ 2015年3月31日（予定）

7 プライバシーの保護について

- 1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報、氏名と患者番号のみです。その他の個人情報（住所、電話番号など）は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、個人情報をすべて削除し、第三者にはどなたのものかわからないデータ（匿名化データ）として使用します。
- 3) 患者さんの個人情報と匿名化データを結びつける情報（連結情報）は、本研究の個人情報管理者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。また、研究終了時に完全に抹消します。
- 4) なお連結情報は当院内のみで管理し、他の共同研究機関等には一切公開いたしません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

研究機関名：慶應義塾大学医学部病理学教室

住 所：〒160-8582東京都新宿区信濃町35

電 話：03-5363-3764（直通）

担当者氏名：蔵本 純子（くらもと じゅんこ）